令和７年度

「運営に関する計画」

大阪市立　古市　小学校

令和７年４月１７日

（様式例１）

大阪市立古市小学校　　令和７年度　運営に関する計画・自己評価（総括シート）

１　学校運営の中期目標

現状と課題

令和６年度「運営に関する計画」における最終評価から、本校の現状と課題は以下のとおりである。

全教職員が平素より子どもに寄り添い、保護者との連携を丁寧に行っている。「いじめアンケート」を毎月行い、子どもの実態把握に努めてきた結果、学校が楽しいと感じており、いじめや不登校は少なく安心・安全な教育活動に取り組むことができている。一方で、自尊感情の向上は十分とは言えず、本校の長年の課題となっている。

学力・体力面においては、小学校経年調査における国語及び算数の正答率がどちらも大阪市平均の７割に満たない児童の割合は 6%となり、令和５年度の 13%から減少した。また、運動やスポーツをすることが好きな児童の割合は 67%と目標を上回り、運動やスポーツを楽しむ児童が増えた。学年間の系統を意識した学力体力向上の取り組みは重要である。

学習者用端末の活用に関しては、「日々の学級活動の中で毎日、学習者用端末を活用して学習している」の項目に肯定的に答える児童の割合は、低学年で 83%だったが、高学年では 59%となった。取り組みの頻度は学級間・学年間でばらつきがみられる。

中期目標

【安心・安全な教育の推進】

○　令和 7 年度の全国学力・学習状況調査の「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する割合を 90%以上にする。（１）

○　毎年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を、毎年、増加させる。（１）

○　令和 7 年度末の校内調査の「友達一人一人の違いを大切にしている」の項目について、肯定的に答える児童の割合を 90%以上にする。（２）

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○　小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 35%以上にする。（４）

○　令和 7 年度小学校学力経年調査の平均正答率 7 割以下の児童を、いずれの学年も令和 3 年度より 2 ポイント減少させる。（４）

○　令和７年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の体力合計点の対全国比の割合が、男女ともに１を上回るようにする。　※全国平均を１とした時の割合（５）

○　令和 7 年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」の項目について、最も肯定的に答える児童の割合を 70%以上にする。（５）

【学びを支える教育環境の充実】

○　令和 7 年度末の校内調査の「日々の授業の中で学習者用端末を活用して、学習している」の項目について、「ほぼ毎日」と答える児童の割合を 90%以上にする。（６）

○　1 か月の在校時間の総時間から条例等で定められた勤務時間の総時間を減じた時間が 45 時間を超えず、及び、1 年間の在校時間の総時間から条例等で定められた勤務時間の総時間を減じた時間が 360 時間を超えないようにする割合を 70%以上にする。（７）

２　中期目標の達成に向けた年度目標

【安心・安全な教育の推進】

○　令和７年度の小学校学力経年調査の「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する割合を 90%以上にする。（１）
○　毎年度末の校内調査において、不登校の児童(生徒)の割合を、毎年、前年度より減少させる。（１）
○　令和７年度末の校内調査の「友達一人一人の違いを大切にしている」の項目について、肯定的に答える児童の割合を、90%以上にする。（２）

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○　令和７年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を 40%以上にする。（４）
○　令和７年度の小学校学力経年調査における国語、算数の正答率が市の平均の７割に満たない児童を学校全体の 13%未満にする。（４）
○　令和７年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の体力合計点の対全国比の割合が、男女ともに１にする。 ※全国平均を１とした時の割合（５）
○　令和７年度の小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 68%以上にする。（５）

【学びを支える教育環境の充実】

○　授業日において、児童の８割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 55%以上にする。〔ただし、学校行事等ＩＣＴ活用が適さない日数を除く〕（６）
○　第２期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準１を満たす教職員の割合を 79%以上にする。（７）

３　本年度の自己評価結果の総括

（様式例２）

大阪市立古市小学校　　令和７年度　運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標１　安心・安全な教育の推進】 ○　令和７年度の小学校学力経年調査の「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する割合を 90%以上にする。（１） ○　毎年度末の校内調査において、不登校の児童(生徒)の割合を、毎年、前年度より減少させる。（１） ○　令和７年度末の校内調査の「友達一人一人の違いを大切にしている」の項目について、肯定的に答える児童の割合を、90%以上にする。（２）	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向１　安心・安全な教育環境の実現】 ・校内調査や児童の観察等によって、いじめが認知された場合、学年・管理職・いじめ対策委員会との情報共有を行い、指導の方針や進め方等を確認し、迅速に対応する。 ・指導の経過を記録に残し、解消されたと判断されるまで指導を続ける。 ・また、いじめにつながる児童同士の関係や事象がないかを日常的に把握するため、「いじめアンケート」などの取り組みを行う。 指標 ・スクリーニング会議を毎月行い、いじめ指導の進捗状況や児童の様子について情報を共有し、未然防止・早期対応を徹底する。 ・「いじめアンケート」を実施し、いじめの解消率を 90%にする。 ・校内調査における「いじめはいけないことだと思いますか」に対して、肯定的な「思う」と回答する割合を 90%以上にする。	
取組内容②【基本的な方向１　安心・安全な教育環境の実現】 ・新たな不登校児童の割合を減らすため、「いいとこみつけ」「スクリーニングシート」を活用する。複数の視点で支援を必要とする児童を早期に把握し、適切な支援を行う。 ・欠席状況や児童の観察等から不登校傾向が認められた場合には、学年会で取り上げ、さらにスクリーニング会議で報告することで、学校全体で情報を共有し、指導の方針や進め方等を確認して早期対応に努める。 ・原因の特定・解消を進める中で保護者との連携を図りつつ、保護者への支援や働きかけが必要な場合は管理職・教職員・関係機関とも連携を図る。また、不登校につながる児童同士の関係や事象がないかを日常的に把握するため、「いじめアンケート」や聞き取り等、事象に応じた的確な取り組みを行う。 ・学校に来にくい児童の居場所を確保し、安心して学校生活を送れる手立てや働きかけを計画的、継続的に行う。 指標 ・全教職員が「いいとこみつけ」「スクリーニングシート」を活用する。 ・スクリーニング会議を毎月行い、不登校傾向が認められた児童は、学校全体で情報を	

共有し、全教職員が連携して問題の未然防止・早期発見を徹底する。	
取組内容③【基本的な方向２　豊かな心の育成】 ・児童の自尊感情・他尊感情を高めるための手立てとして、自然体験学習や社会体験、たてわり班活動、異学年交流や地域との交流を計画し実施する。 ・「他者への奉仕(ボランティア活動)「助け合い・学び合い」「いいことみつけ」などの学習を通して、豊かな心の育成を図る。	
指標 ・令和７年度末の校内調査では、低学年は「たてわり班活動(オリエンテーリング・児童集会など)では楽しく活動できましたか」、高学年は「たてわり班活動(オリエンテーリング・児童集会など)では、他学年のことを考えて活動できましたか」という項目において、肯定的に答える児童の割合を 80%以上にする。 ・令和７年度末の校内調査の「友達一人一人の違いを大切にしている」の項目について、肯定的に答える児童の割合を 90%以上にする。 ・「他者への奉仕(ボランティア活動)」「助け合い・学び合い」「いいことみつけ」などの活動を各学年で計画し実践して、取り組んだ内容をまとめる。 ・隔年で芸術鑑賞と音楽鑑賞を学校行事として設定し、情操教育を行う。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【年度目標】について
（年度目標の達成状況を数値などにより具体的に記述する。）

【取組の進捗状況】について
（取組の進捗状況を具体的に記述し、取組の成果や実施上の課題などについて記述する。）

次年度への改善点

【目標設定】について
（まず、年度目標のうち、未達成のものについて次年度はどのように取り組むのか記述する。次に、課題のあった取組ごとに、課題に対する改善点や方策を記述する。）

（様式例 2）

大阪市立古市小学校　　令和７年度　運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標２　未来を切り拓く学力・体力の向上】 ○　令和７年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を 40%以上にする。（４） ○　令和７年度の小学校学力経年調査における国語、算数の正答率が市の平均の７割に満たない児童を学校全体の 13%未満にする。（４） ○　令和７年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の体力合計点の対全国比の割合が、男女ともに１にする。　※全国平均を１とした時の割合（５） ○　令和７年度の小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 68%以上にする。（５）	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向４　誰一人取り残さない学力の向上】 ・近くの友達と話し合う「ぼそぼそタイム」や学級全体で話し合う「深めよう広げようタイム」を取り入れた授業を行い、話し合い活動の充実を図る。 ・学習の最後に振り返りの時間を設定する。振り返りの話型を活用しながら学習の振り返りを行い、児童が学びの深まりを感じられるようにする。 ・「児童が話し合い活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができるような授業づくり」を教員が意識して行い、どのような実践をしたか交流する機会を設ける。 ・ドリルやプリント、タブレット学習など、児童の実態に応じた教材を活用する。また、教員が児童の学習の進度を把握し、個に応じた支援をしていく。 ・誰一人取り残さない学力の向上を達成するために、個人懇談期間中に担任外が中心となって学習タイムを設定し、学習の取りこぼしを減らすようにする。 ・教員の授業力向上を目指して、積極的に研究授業・公開授業を参観したり、研修会に参加したりする。 指標 ・校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 40%以上にする。 ・令和７年度の小学校学力経年調査における国語、算数の正答率が市の平均の７割に満たない児童を学校全体の 13%未満にする。 ・年２回、個人懇談期間中に学習タイムを実施する。 ・校内や校外での研究授業・公開授業、研修会に 10 回以上参加する。	
取組内容②【基本的な方向５　健やかな体の育成】 ・教員の実技研修を行なったり、運動カードを活用したりして体育の授業を実施し、運	

動が苦手な児童にも運動が好きになる授業づくりに努める。
・異学年で体を動かす行事を行うことで、楽しみながら運動ができるようにする。
・スポーツテストの記録を児童に渡すことで、運動に対する意識を高められるようにする。
・保健指導や栄養指導により基本的な生活習慣を身に着け児童の健康の保持増進を図る。

指標
・教員の実技研修を年に１回以上行う。
・年２回以上の食育指導を行う。
・学期に１回健康週間を行う。
・令和７年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の体力合計点の対全国比の割合が、男女ともに１にする。 ※全国平均を１とした時の割合
・令和７年度の校内調査の「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」の項目について、最も肯定的に答える児童の割合を 68％以上にする。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【年度目標】について
（年度目標の達成状況を数値などにより具体的に記述する。）

【取組の進捗状況】について
（取組の進捗状況を具体的に記述し、取組の成果や実施上の課題などについて記述する。）

次年度への改善点

【目標設定】について
（まず、年度目標のうち、未達成のものについて次年度はどのように取り組むのか記述する。次に、課題のあった取組ごとに、課題に対する改善点や方策を記述する。）

（様式例 2）

大阪市立古市小学校　　令和７年度　運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標３　学びを支える教育環境の充実】 ○　授業日において、児童の８割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の55%以上にする。〔ただし、学校行事等ＩＣＴ活用が適さない日数を除く〕（６） ○　第２期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準１を満たす教職員の割合を 79%以上にする。（７）	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向６　教育 DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】 ・週１回以上、朝学習においてデジタルドリルを活用する。また、３～６年生においては、デジタルドリルを活用した振り返り学習や家庭学習を実施する。 ・生活科、理科、体育科の授業では、デジタル教科書や学習者用端末を積極的に使用し、多様な子どもたちを誰一人取り残すことのない、個別最適な学びや創造性を育む学びを目指す。 ・心の天気の入力を習慣化し、児童理解に活かす。 ・教員一人一人のスキルアップや学校の組織力向上を図るため、ICT 活用に関する校内研修を行う。 指標 ・各学級や授業にて、デジタルドリルを活用した朝学習などを週に１回以上行う。 ・授業日（学校行事等ＩＣＴ活用が適さない日数を除く）において、学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 55%以上にする。同時に、校内調査おいて、「日々の学校活動の中で毎日、学習者用端末を活用して学習している」の項目について、肯定的に答える児童の割合を 80%以上にする。 ・ICT 活用に関する校内研修を年に１回以上行う。	
取組内容②【基本的な方向７　人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 ・勤務情報システムの「時間外勤務実績」を毎月の職員会議でチェックし、時間外勤務に関しての意識を改善していく。 ・時間外勤務の時間を減らせるよう、時差出勤の制度を利用したり、専科制や教科担任制を昨年度以上に活用して効率的に準備をしたりするなど、時間の使い方を工夫する。 ・会議を短くするために、伝達事項・連絡は PC 上で読み、質問や意見がある場合、担当者に伝え、全体で共有するようにする。そのために、全員が SKIP 掲示板や outlook、ミマモルメを毎日開いて確認するように徹底する。 ・学校行事の精選を進めていくとともに、昨年度も行った全教員での「次年度学校行事について」の話し合いを今年度も行う。 指標 ・１か月の在校時間の総時間から条例等で定められた勤務時間の総時間を減じた時間が 30 時間を超えない割合を各月 70%以上にする。 ・基本的に、ゆとりの日を第１・２水曜日に設定し、毎月１回以上設定できるようにす	

る。
・基本的に、NKD(No Kaigi&Kensyu Day)を毎週目標日に設定し、会議や研修などのない日を年間 35 日以上とれるようにする。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
【年度目標】について （年度目標の達成状況を数値などにより具体的に記述する。） 【取組の進捗状況】について （取組の進捗状況を具体的に記述し、取組の成果や実施上の課題などについて記述する。）
次年度への改善点
【目標設定】について （まず、年度目標のうち、未達成のものについて次年度はどのように取り組むのか記述する。次に、課題のあった取組ごとに、課題に対する改善点や方策を記述する。）